

人と魚にやさしい川づくり事業-河川管理者との協働による川づくりに関する研究-

(令和6年度)

吉田豊・村井涼佑

要 約

多自然川づくりの考え方や優良事例について、土木や水産に関わる職員等で共有し、今後の施策等に生かす契機をつくることを目的に「多自然川づくり研修会」を2023年12月20日に栃木県県土整備部河川課と共催した。当日は、県や市町の土木職員、水産職員など合計92名が出席した。講師に研修会での感想を聞き取りしたところ、出席者の中で講師の印象に特に残った2名の職員が過去の研修会への参加経験があり、さらに業務として多自然川づくりに即した工法の試行に携わっていたことから、こうした取り組みの継続が意識の向上や人材育成につながるものと考えられた。

また、河川管理者と漁協等水産関係者の協働による工法の検討を4河川で対応した。これらのうち那珂川（那珂川町）での取り組みは、漁場環境の改善そのものを目的としたもので、栃木県では画期的な事例であった。地元漁協では漁場を常に観察しながら、具体的に「どこで」「何を」「何のため」「どのように」改善するかを整理してきたとのことであり、こうした取り組みが実現に向けての鍵になったものと考えられた。

河川管理者と漁協の連携を促進する上で基礎的な情報を収集することを目的に、アユ漁場を有する漁協に対し、漁獲量の過去からの変化に関する実感や河川工事への考えなどについて聞き取り調査を行った。その結果、多くの漁協では過去と比べ漁獲量の減少を実感しており、漁獲量の増減に関係すると考える要因として河川環境を挙げていた。また、河川工事に対しては、濁りの発生防止とともに河床(川を平らにしない、石を残す)やアプローチの確保(護岸への階段や水際まで自動車が乗り入れ可能な道の造成)とともに、関係者と漁協の意見交換や問題発生時の連絡といったコミュニケーションを求める意見が聞かれた。

(指導環境室)